

# 山桜の里 戸赤

朝 9 時、作業前の打ち合わせ



集会所の障子貼りは今年もカット。作業終わり次第  
やまざくら学校の避難訓練など日程確認

6.14  
共同作業



校庭

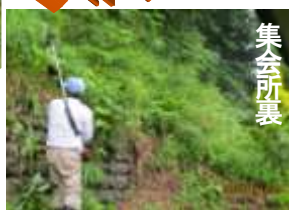


作業終了後の反省会で 6.26 花壇の苗植栽(老人会)事業への協力請があった



小椋義道さんの乾杯で反省会

栽培 花豆



集会所裏

川が変わる

「新しい川底も平らで遊び場には大丈夫そう」 工事現場を改めて視察



6月初旬、もつと繁茂してくれないかと待ちわびる成育状況

「畑がたくさんあれば連作障害対策もうまくいくのだが…」と耕地面積の問題。また、売り先で異なる価格の差幅、耕作者数と栽培面積の減少など、花豆栽培の課題は新たな局面にさしかかっているのかもしれない。



ねきのひとコマ

やまざくら学校前の県道改良工事のため河川工事が進められており、道路工事の分も区長から説明があった。

【木地の学習No.56】**椀木地 作業工程 アラガタリ** 木地椀づくりの工程は大きくわけて原木の伐採、アラガタリ、カタブチ、ナカギリ、ロク口挽きの順で行われるが、アラガタリの段階で地域的に大きな差がみられる。田島町針生と昭和村畑小屋ではムキドリという方法を用い、他の地域ではブンギリという方法が用いられていた。ムキドリというのは、原木の伐採後、表皮をはがし、マガリヨキというヨキを使ってお椀を伏せたように形づくる。それを一枚一枚はがしてアラガタをとる。一列がとり終わると原木をくりりとまわし、次の一列を同じようにとっていく。そして木の芯を残してまわりをむくようにしてとっていくので、ムキドリといったようである。この方法でとるアラガタは大方板目であり、少々曲った木であっても無理をすれば、アラガタがとれたので、乾燥してから多少狂いが生じた。またマガリヨキ1丁でカタをとるので、木くずが多く出て効率が悪いように見えるが、針生と畑小屋の木地屋は、ずっとこの方法でアラガタをとってきた。これに対し、ブンギリは、伐採した原木を四尺ほどの長さで五切りし、太いものは半分に割って中の芯をえぐり取る。半割りした原木は、背中を上にしてヒラヨキ(ハマグリヨキともいう)で、四寸~四寸五分位に切り込んでゆく。この寸法は椀の大きさによって異なるが、この段階では、細かい寸法はあまり気にしていない。〔会津地方歴史民俗資料館「木地語り」より〕(つづク)〕

「星光意」さん被写体の写真が最高賞に輝く

# 「火事だー」



「厨房から出火の想定で避難訓練を実施。6月10日、日共同作業協会の参加者で行われた。

## やまざくら学校の避難訓練

団体 福島写心会  
個人 吉田さん (フレンド)  
県写真クラブ合同例会

第四十三回県写真会「日南会津町の会津高  
ラフ合同例会」は十四原リゾートイン台場で

金賞に輝いた吉田さんの作品「93才の春」

**最高賞 応募543点を審査**

開かれ、最優秀クラブ賞は福島写心会、個人賞は吉田浩子さん(フォトフレンド)が選ばれた。県写真連盟の主催、毎年開催しており、県内の写真クラブから八十人が参加した。自家幸弘県写真連盟南会津支部長らが応募があった五百四十三点を審査した。福島写心会は、秀逸な作品が多く、団体最高賞に輝いた。個人賞の吉田さんの作品「93才の春」は下郷町の団体賞、最優秀クラブ賞に輝いた。

6.16 福島民報

## 戸石集落 田休み旅行



どこの家も田植えが終わり一息ついた6月11日、戸石集落では恒例の古峯神社参拝を兼ね田休み旅行が行われ、3人参加できなかったものの20人で益子焼など訪ね懇親を深めました。

(ストーリー性のある村づくりのために[No.25]・下郷町史 土器の中にはドングリやイネ・ヒエ属の圧痕のあるものがあり、製作や焼成も季節が決まっていたかもしれないし、集落で得意な者が専門に制作したことも考えられる。大川や只見川・伊南川には夏マス・秋にはサケが遡上しており、明治初年の鱒漁を記した『水産小学』の「大桃村鱒籠之図」のような籠による漁や、築やヤス・カギ釣・釜・釣などで採り、アイヌのようにこれを干物或いは燻製にして保存したと思われる。このことは南会津町南郷民俗館や奥会津博物館の漁撈用具や会津若松市の東高久遺跡出土の一世紀末に使用したマスカギからも推定できる(『会津若松市史』1あいつのあけぼの「石器時代から古墳の時代へ」所収)。当然大型のクマなどの獣の捕獲には専門的知識が必要であろうし、女子供や高齢者でもできるトチやクリなどの採集や乾燥・保存などの作業は分担していたことであろう。下平・赤羽両遺跡や南会津町寺前遺跡からは陥し穴状遺構が検出されており、イノシシやシカなどの捕獲がなされていたようである。また採取したものの全てを消費するのではなく、天候不順によって収穫できない場合に備えて蓄えることも忘れなかったであろうし、その一部は他の地方との交易品となったものと思われる。瀧平遺跡からは発掘調査で縄文後期と思われる石組墓一基が検出されており、伊南堂平遺跡の出土品からみても死者をていねいに埋葬する風習があったと考えられる。

「下郷町史」第7巻通史編(発行・下郷町)より出典(続く)